

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

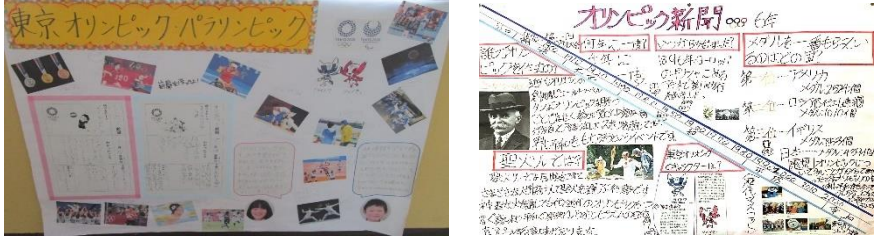
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 愛媛県立松山聾学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	小学部 8名（1年生1名・2年生2名・3年生2名・5年生2名・6年生1名） 中学部 4名（2年生3名・3年生1名） 高等部 6名（1年生1名・2年生4名・3年生1名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ 「デフ陸上教室」体育授業・サマースクール ） ③ その他（ 合同自立の時間・総合的な学習の時間 ） （2）地域における活動 ④ イベント名（ ） ⑤ その他（ ）
4 目標 （ねらい）	（1）オリンピック・パラリンピックとともに、聴覚障がい者のオリンピックであるデフリンピックについて学び、デフスポーツやパラスポーツへの理解を深め、スポーツを通して共生社会について考えられるようにする。 （2）デフ陸上競技やボッチャを体験し、スポーツへの関心を高めるとともに、日常生活の中でスポーツを楽しむ心を育成する。
5 取組内容	（1）「デフ陸上教室」スタートランプを体験（中・高等部） 中学部サマースクール（7月）と体育授業（1月）の2回実施  （2）ボッチャの授業（小・中・高等部の体育） 

	<p>(3) オリンピック新聞の制作 (小学部高学年・総合学習の時間等)</p>  <p>(4) 文化祭のステージ発表「東京2020」和太鼓演奏 (中学部)</p> <p>(5) 合同自立での発表「東京大会を振り返って」 (高等部)</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) デフ陸上教室では、デフリンピック・メダリストである本校教諭の佐藤将光氏による講演のおかげで、本校生徒の実態に合った講演と実技体験を行うことができ、デフリンピックやデフスポーツへの理解が深まったと考える。</p> <p>(2) 本校では、今回取り上げた「陸上教室」以外にも、生活単元学習や自立、総合的な学習の時間、文化祭等でもオリンピック・パラリンピックをテーマとした活動が多く展開された。東京大会の開催を通して、スポーツやそれに関わる人間に触れる機会が増え、児童生徒にとって貴重な学びの機会になった。</p> <p>(3) 東京大会の開催前後で、児童生徒の計13名にアンケートを実施したところ、オリンピック・パラリンピックへの関心は9名が高くなり、運動やスポーツをすることへの関心は4名が高くなった。他の項目については、大きな変化は見られなかった。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 本校は聴覚障がいがある児童生徒が学ぶ学校である。その障がい特性から、スポーツをするにあたり工夫の必要な部分もある。その工夫の一つとして、今回の陸上教室では日本デフ陸上競技協会から借用した「スタートランプ」を扱い、体験を通してデフスポーツへの理解を深めることをねらいとした。</p> <p>(2) 東京大会でオリンピック・パラリンピックへの理解は深まるだろうが、テレビに映っていない障がい特性がある方も工夫をしてスポーツに参加していることを知り、社会参加や共生社会について考える機会とした。</p> <p>(3) 本校には重複障がいのある児童生徒もおり、パラスポーツのひとつであるボッチャを体育の年間指導計画の中に10時間程度組み込んでいる。その経験を踏まえて、学校行事や交流学習においてもボッチャを扱い、児童生徒が活躍できる機会が増えている。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>今回の東京大会で、様々な障がいのあるパラリンピアンたちが競技に挑む姿を目にすることができた。今大会に採用された競技では競技力向上が進み、障がい特性の理解が深まることが予想される。しかし、一方で聴覚障がい者のスポーツや今大会で採用されなかった競技は、知られていないものも多い。</p> <p>今後、共生社会を目指す中で、さらに互いを知る機会が増え、子どもたちが感じて理解を深めるために、学校教育の果たす役割は大きいと考える。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今後も引き続き、オリンピック・パラリンピック、そしてデフリンピックの啓発を繋げていく。また、デフリンピック東京大会開催に向けて、関心が高まるよう授業等で取り扱う。</p> <p>児童生徒が授業や行事等を通じて、生活の中で気軽にスポーツに触れ合う(する・見る・支える)機会を自ら確保する力を高める支援を進めていきたい。</p>

